学びの風便り

リーディングスクール通信 24　R6.7.15

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

特集！学びの改革のあゆみ　筑摩野中学校・中山小学校

筑摩野中学校　　よりよい"協働の学び"を目指して

リーディングスクール ２ 年目の筑摩野中学校。「協働の学び～対話を基盤とした授業づくり～」をテーマに、昨年度から始まった ４ 人１組のグループの学び。生徒たちからは、「目の前や横にクラスメイトがいることで確認し合えるので自信がついた」「ふとした疑問や考えをもとに会話がしやすくなった」という声があがっています。実際に、どの授業でも生徒が周りに聞きやすい雰囲気を感じます。今年度は、村瀬公胤先生（麻布教育ラボ）の助言のもと、昨年度から筑摩野中学校で研究している対話が生まれる「学習問題（問い）」の工夫について、研究を深めていきます。さらに、４ 人 １ 組のグループの学びを継続しながら、生徒の学び（頑張り）を評価する「振り返り」の研究にも力を入れていきます。

４ 人 1 グループでの学びが自然と対話を生む。

全職員で構成されるラーニンググループ(LG)での研究会がスタート！

今年度の研究の柱である「学習問題（問い）」「振り返り」について、多面的・多角的に研究を進めていくために、全職員にアンケートをとり、８ つの研究グループが生まれました。

「学習問題（問い）」の研究グループテーマ	「振り返り」の研究グループテーマ
①関心意欲を高める学習問題	⑤次時にいかせる振り返り
②生徒の問いから始める学習問題	⑥適切な振り返りができる観点／手立て
③単元を通した学習問題	⑦振り返りカード
④生徒の興味関心を導き出す学習問題・学習環境・導入	⑧振り返りの手立て

５月 27 日には第１回 LG 研究会を実施し、研究グループごとに「目指す生徒像・グループテーマを進めるための手立て・見通し」を自由に出し合いました。「④生徒の興味関心を引き出す学習問題・環境・導入」のグループでは、「実生活に関わる学習問題にする、聞き上手な人を増やす」等の意見が出ました。「⑥適切な振り返りができる観点／手立て」のグループでは、「今日一番『なるほど！』と思ったことは何か？を聞く、〇か×かでこたえられる発問にし、なぜそう答えたのかを考えさせる」等の意見が出ました。先生方一人ひとりの今までの経験や教育観を語り合う中で、グループテーマに対する自分の考えを広げ、今年度の実践の見通しを持つ機会となりました。

LG 研究会での様子　先生たちも協働の学びで研究を推進する。

筑摩野中学校授業クリニック　開催

７ 月 17 日には、昨年度に続き村瀬公胤先生（麻布教育ラボ）を招き、「筑摩野中学校授業クリニック」を開きます。クリニックを通して、今年度の研究の柱である「子どもたちが自然と探究し合いたくなる問いの設定や振り返りの工夫」について学び合います。当日は国語の授業を全職員で見合い、生徒の姿をもとに自分が学んだことを語り合う授業懇談会を行います。今年も村瀬先生のクリニックを経て、より充実した協働の学びを生み出せる筑摩野中学校に進化していきます。

LG 研究会で活発に語り合い出された意見

中山小学校　「地域に根ざした探究的な学び」を目指す体制づくり

リーディングスクール２年目を迎えた中山小学校では、１年目を終えた先生方からの振り返りの中から、次の３点を課題の核に据え、学びの「質」を高める取組みを進めています。

- （異年齢の集団を活用した）対話の中で、どうやって「質」を高めるか。
- 振り返りの視点をどうもつかによって、どのように学びが深まるか。
- 基礎的な学びをどのようにして確実に定着させるか。

本年度は、新しく赴任した先生方とも学校の目指したい方向性を確認したうえ、悩み事や単元を構想する上でアドバイスを交換したりする「重点研究チーム」（総合的な学習チーム、教科学習チーム）を組織し、２週間に１回程度意見交換を行うことにしました。

また、学校全体で研究を進めやすくするために、月に１回程度、水曜日を４時間授業とし、午後を職員研修の時間とすることにしました。授業公開は、対象学級のみが５時間目に残り（全学級が公開予定）、全職員が参観できるようにしました。

探究を進めるうえで大切にしたいことを、具体的な言葉で共有していく

１学期のうちに「重点研究チーム」の懇談や職員研修を重ねていく中で、子どもたちが自ら探究的に学んでいけるために大切にしていきたい視点（自問する視点）を次のように整理していきました。

＜他者とのかかわりあいのあり方＞

- 人とどう出会う（出会わせる）ことで、その効果を高められるか。
- 学習形態（ペア、グループ）は、どんな場面で、どんな形態をとれば対話の「質」が高まるか。
- 音声対話が、関係者のうちに刻まれていくために、どのような方法が考えられるか。（付箋、ホワイトボード、ＩＣＴ等）

＜振り返りや評価のあり方＞

- 何をどう振り返るように促すか。
- 自己評価と他者評価をどのように組み込むか。また、客観的評価としてアンケートをどう組み込み、子どもたちへフィードバックするか。
- 振り返りや評価のあり方は、子どもたちの達成感や充実感、そして新たな問いへつながるものになっているか。

＜体験の充実のあり方＞

- 単元全体に大きな影響を及ぼす体験（アンカーイベント）は何か。
- 失敗体験（課題解決になりえる）を位置づけられそうか。また、それはどんな体験か。

この視点をもとに、各学年では様々な活動が動き出しています。３年生は、くり」、４年生では地域の民話「泉小太郎」の劇、５年生は「コメづくり」、６年生では、「身の回りのユニバーサル・デザイン」、「古墳調査」がスタートしました。これらの詳細は今後、ＨＰ等でお伝えします。